



中高生とともに差別と闘う

「資料はすでに生徒の申にある」

吉成タダシ



今回の学年全体人権学習を実施するにあたり、私とペアを組んで授業をしてくれた若手教員が、大学生時代に在日コリアンの友人がいたことを明かしてくれました。しかしそのときは、この問題に対する認識が全く無く、今回初めて知ったと。そこで、可能なら、今あらためてその友人に連絡をとり、いろんな話を聞かせてもらったらどうかと提案しました。すると、当時のこと、実際に電話したことなどを、約二百人の中学生の前で話してくれました。

大事な問題なのに、なかなか取り組まれない在日コリアン問題。けどその話は、子どもたちにスッと入っていったように感じられました。

*

この勉強を始めたときに大学時代を思い出して。大学で県外に行っていたときにアルバイトをしてただけで、「新しい子が入ってくるよ」って言われて、「どんな子ですか」って訊くと、「韓国人と日本人のハーフ」って言われて、「あー、ハーフが入ってくるんだ」って、みんなでワクワクしてたんです。そのあと、その男子と、「はじめまして」っていろいろ話をしたんだけど、その子は自分の過去というか、昔どこの高校に行っていたのかっていうことをなかなか話したがらなかったんです。

みんなもしてると思うんだけど、その子ともツイッターとかSNS系でつながってたから、その子の友達を見てたら、韓国人の子が多いなっていうのを見つけて。そのなかで朝

鮮学校卒業って書いてました。朝鮮学校ってみんな聞いたことある？ みんな初耳かな。聞いたことないかな。私と同じ年だったんだけど、その子は朝鮮学校出身だったんですね。私は、朝鮮学校に行ってるっていうことがどういうことかっていうことを全然分かってなかったんです。今回私は、みんなとこういって勉強を一緒にしたから、「あーそうなんだ」って思えるんだけど、大学生の当時っていうのは全然知らない状態でした。

その子は、韓国で使う名前と日本で使う名前、二種類もっていました。その子と話してる時に、「ボク二つ名前あるんだよ」って言われて。「えっ、二つも名前があるんだ。ふーん。なんで二つも名前あるの？」って、ポロツと言ってしまうました。私の中では、「韓国の人は二つ名前もってるんだ」ぐらいにしか感じなかったんです。でも今考えてみると、私とちゃんと在日コリアンのことについて理解があったら、そんな返答はしなかったと思うんです。だけど、今回こういう勉強をして、私がそういう発言をしたっていうのは、その人にとっては、自分のことを分かってもらえてないなって、自分が二つ名前をもってるっていうことはどういうことなのかっていうことは、この人には伝わらないんだなっていうのを、たぶん感じさせてたんだろうなって、この勉強しながら思いました。全員が全員、自分と仲のいい子の背景であるとか、お父さんお母さんとか、おじいちゃんおばあちゃんか

どんな人かかっていうのは知らないと思うんです。でもこの在日コリアンの問題っていうのは、やっぱり知ってなかったら、相手のことをもしかしいたら傷つけてしまうかもしれない。知らないうちに。自分は相手のことを考えて行動できてなかったなって、大学るとき大事な勉強全然できてなかったなって、人に対してすっごい失礼なこと言ってしまったなって、今は思っています。

*

「資料はすでに生徒の中にある」
私がよく先生方に言う言葉です。同時に、資料は私たち教員の中にもすでにあります。それを語り合うことだと思えます。それが、生きた教材です。勉強の話は覚えてなくても、そんな話はよく覚えてるものです。

*

さっき私が、大学時代のバイトの子の話をしたの覚えてますか。その子と久しぶりに連絡をとりました。この日曜日に。

私がいまの前でこういう集会をするっていうのは、だいぶ前から決まってるって、こんな内容をするっていうのも決まっていたので、こういうところじゃべろうと思ったら、ちゃんと自分が勉強しとかなんかと思って。じゃあどう勉強しようかなと思つたときに、やっぱり人に聞いた方が勉強になるだろうと思って、二年ぶりぐらいにその子に連絡をしました。「中学二年生で、学年全体の前でこういう授業をしようと思ってるんだけど、何かいろいろ教えて

くれない？」ってラインしたときに、「いいよ全然。いつでも電話して」みたいなラインが返ってきたので、一時間ぐらい、いろいろ教えてもらいました。まずそのときの第一声が、「そういうふうには勉強してくれない人がいるっていうのがうれしい」って。在日コリアンのこととか、みんなはたぶん勉強しなかったら、そのまま高校に行つて、大学に行く子も就職する子もいると思うんだけど、私はそこを勉強をせよに通つてきて。今教員になってこういうことを勉強をして、「もしかしらこれから生きていく中で、そういう人たちと出会っていくんだな」っていうのを、そこで学んだというか感じて。そのときにその子に言われたのが、「そういうことを勉強してくれる人がいるっていうことは、知っているっていう人の輪が広がっていくっていいことなんだ」っていうことを言ってくれて。「あー、確かにそうだな」って思つて。

この一年間、「知る」っていうことを勉強してきたと思います。ここからやってみるって、いろんなことを話し合うなかで、やっぱり相手のことを知ることが大切だっていうことを学んできたんだと思います。

*

先の発言に続けて、授業の終わりに後のような発言を重ねて語ってくれました。本当に子どもたちはよく聞いていました。

次号、その感想を紹介します。